

市議会 だより

令和6年6月定例会報告

鶴ヶ島市議会



多世代の交流の場、近隣・地域住民の
関係性づくりの場をつくる手助けを



子ども会によるタケノコ掘り

脚折第三自治会子ども会にインタビュー

目次

特集 市民と議員の懇談会2024	2
市の考えを問う 一般質問	4
6月定例会報告	12
委員会審査	13
市民・団体インタビュー	14

市民と議員の懇談会2024

「語り合う！暮らしのことまちのこと」



たくさんのご意見
ありがとう
ございました！



皆さんからの御意見・アンケート結果についてまとめています。



令和6年6月23日(日)に市内3市民センターで、市民と議員の懇談会を実施し、合計で66人と、多くの方に参加いただきありがとうございました。

各地域に分かれて開催することで、地域が抱える様々な問題を、たくさん聞くことができました。

いただいた御意見・アンケートはホームページなどにも掲載します。

今後も、当市議会をよろしくお願ひします。

南市民センター



担当議員

大曾根 英明
福島 恵美
内野 嘉広
山中 基充
太田 忠芳
村上 信吉

南市民センターに27人の参加者を迎え和やかに進行了しました。そして、御記入いただいたアンケートからも多くの建設的な意見を得ることができました。新南市民センターへの期待や要望、自治会、ボランティア活動などのまちづくりに関するものが10件、子育ての環境づくりや働く世代への対応策、人口減少対応策など、将来を担う世代への取組を願うものが9件、女性の議員や自治会長など多様な方が活躍する社会を望む意見が3件、また、市広報活動に関するものが2件ありました。

アンケート回答者全員から、本懇談会の開催を評価するとしていただきました。今後、これらの意見を参考に議員皆で頑張ろうと決意を新たにしました。

富士見市民センター



担当議員

瀧嶋 正紀
長谷川 清
大野 洋子
小島 幸広
高橋 剣二
今野 雄一

富士見市民センターで行われた懇談会には17人が参加され、活発な意見交換を行いました。道路の修繕や街路樹の管理、カーボンニュートラル、市街化調整区域における下水道の課題、学校給食費無償化、図書館蔵書関連、地域の国際化と地域コミュニティ、公共施設を利用し賑わいを創出する新たな取組、地方創生臨時交付金の使途、防災減災についてなど、市民生活に密着したものが多く寄せられました。

終了後のアンケートには、「3会場での小単位の実施で話しやすかった」、「少数の参加者だったが、活発な意見が出て良かった」、「開催回数を増やしてほしい」、「などの声もありました。有意義な懇談会となりました。

西市民センター



担当議員

出雲敏太郎
杉田 恭之
小川 茂
小林ひとみ
高篠 雅洋
小川 尋海

西市民センターで行った懇談会には22人の参加がありました。いただいた御意見には、「つるワゴンが居住自治会内を走っていない。停留所まで行くのが大変なので、停留所を増やしてほしい」、「一本松駅南口改札設置や道路整備の進捗状況などの情報をもっと公開してほしい」、「インターネットだけでなく、高齢者も分かりやすい方法で情報発信してほしい」、「通学路の危険個所に車の規制などをしてほしい」、「防犯カメラの設置をしてほしい」、「一本松の区画整理事業が当初の計画から大幅に変更されたのに事前の説明が不足していた」、「西部地域の問題への意見に耳を傾けてほしい」など、地域の暮らしに密着した、多岐にわたる御意見をいただきました。

市の考えを問う 一般質問

6月14日・17日・18日の3日間行われた一般質問の主な質問(Q)と答弁(A)の概要を掲載します。詳細は、二次元バーコードの読み取りで録画中継をご覧ください。



地域コミュニティの活性化へ！

Q 地域コミュニティ活性化に向けて

むらかみ 村上 信吉 議員



A 機会、空間、人を大切にして地域コミュニティ活性化を進める

問 地域コミュニティの目指すべき将来像は。

答 互助、共助を地域コミュニティが担うことで社会的弱者との共生や多様性を受け入れられる地域社会の構築を目指している。

問 地域活動の推進施策は。

答 自治会などの活動支援や、地域活動参加のきっかけづくり「地域デビューきっかけ広場」の実施など地域活動への参加機会の創出に努めている。

問 危機管理に関する施策は。

答 地域コミュニティを高め、住民がお互いに安否確認や避難の呼びかけを行う関係性を築く必要性があるため、地域の防災訓練や自主防災組織などへの支援を行っている。

問 健康長寿に関する施策は。

答 健康寿命の延伸には、社会参加が重要であり、社会参加を

積極的に促すことは、地域コミュニティの活性化につながると考えている。主な取組として、ラジオ体操会などの立ち上げや活動の支援などを行っている。

問 都市整備に関する施策は。

答 歩きたくなる街並みや公園の整備などがコミュニティの活性化につながることから、生活の質を高める都市基盤の整備と維持管理を計画的に進めている。

問 広報などで高額なりフォーム工事の契約を結ぼうとするトラブルに注意喚起があった。消費者問題への本市の取組は。

答 チラシの配布など情報発信による啓発活動や市民講座などによる消費者教育、また、消費

生活センターでの窓口や電話による相談、月1回の弁護士相談を行っている。

問 大阪市では、条例で玄関に

Q 市民を詐欺から守る 条例を

おがわ 小川 尋海 議員



A 県の条例を基に対策を進める

訪問販売・勧誘を断るステッカーを貼った場合に訪問・勧誘する行為を一律に禁止している。他自治体の取組事例と本市独自の消費者保護条例の制定は。

答 ステッカーを貼ることで安心感が増すなど一定の効果があったようだが、一方で、消費者庁では「訪問販売お断り」と記載されたシールなどを貼っておくことは、契約を締結しない旨の意思表示には当たらないと示している。不要な訪問販売には、「要りません」、「お断りします」と一度断ることが必要になる。

本市では、埼玉県の消費者保護の条例を根拠に消費者問題の対応を進めていく。

◎その他の質問

- 一 教育現場で理にかなった熱中症予防を
- 二 HPVワクチンのキャッチアップ接種率の向上を



Q NEXTGIGAも 保護者負担なしで

やまなか
山中 基充 議員



A 負担のないよう予算を調整する

GIIGAスクール構想により、国の3分の2の補助とコロナ対応の地方創生臨時交付金で、保護者負担なく児童・生徒に1人1台の学習用端末の整備などが実現した。臨時交付金がない中で、来年度の機器の更新（NEXTGIGA）を迎える。

問 端末更新に個人負担を課さないための市の財源確保は、

答 国の補助で賄えない費用は、家庭の負担にならないよう予算化に向け調整している。

問 共同購入を推奨する国の動きへの対応は。

答 文部科学省は、補助金の要件を共同調達会議への参加、共同調達による端末の調達、最低限の仕様を満たす、指導者用端末の整備としている。県は年内に共通仕様書を作成予定である。

問 より高機能、高性能の端末

が求められるが、国の仕様などへの対応は。

答 国が示す最低限の仕様以上になるよう他の自治体や学校と一体的に進めていきたい。

◎その他の質問

一 軟骨伝導イヤホンの市役所窓口導入を

二 小学校と保育園・幼稚園の運動会の日程調整

三 鶴ヶ島市ロケーションサードビス事業について



NEXTGIGAに向けて！

Q 市が取り組む「少子化 対策事業」について

すぎた やすゆき
杉田 恭之 議員



A 結婚・出産・子育ての希望を 叶えるまちづくりが重要である

問 今までの市が取り組んできた少子化対策の内容は。

答 妊娠前から子育て期にわたる切れ目のない支援や地域で安心して子育てができる環境づくりに努めている。

問 今後の「婚活支援」に対する市の考え方は。

答 レインボー協議会（埼玉県川越都市圏まちづくり協議会）における婚活事業や埼玉県と連携したS A I T A M A 出会いサポートセンター運営協議会への加入など、広域連携の仕組みを活かしながら、AIを活用した婚活支援事業などに今後も取り組んでいく。

問 今後の出産に対する市の支

援は。

答 早期不妊検査費や不妊治療費などの助成をしている。今年度から低所得世帯の妊婦に対し、初回の産科受診料の助成を開始した。妊娠期には、継続的な家庭訪問や面談により、必要な支援につなげるとともに、両親学級を開催し、妊娠中の栄養指導などの支援を今後もしていく。

問 今後の市独自の取組は。

答 結婚・出産・子育ての希望を叶えるまちづくりが重要であることから、若い世代や子育て世代のニーズを的確に捉え、実状に合った取組を実行していく。



市の少子化対策を！



(新) 鶴ヶ島中学校の開校に向けて！

Q (新)鶴ヶ島中学校開校に向けた取組は

おがわ 小川 しげる 茂 議員



A より良い開校を目指していく

問 こどもたちに寄り添った学校づくりは。

答 これまでも、こどもたちが

(新) 鶴ヶ島中学校の開校を不安ではなく期待を抱いて迎えられることを第一に考え、準備を進めてきた。一例としては、制服の展示会を関係する小学校でも行い、自分たちが着用する制服を直接選ぶ機会を確保した。

今後は、鶴ヶ島中学校と西中学校の学校行事などの事前交流や部活動の合同練習を検討する。併せて、生徒たちが抱く再編に対する不安を極力取り除くための取組も検討を進める。

問 見えてきた今後の具体的な課題は。

答 今までは、施設や通学路整備などのハード面を中心に準備

を進めてきた。

今後は、学校経営方針や教育

課程などのソフト面の整備が中心となる。その整備の中では、

特に開校時にそれぞれの中学校から集まる中学2年生や3年生

に在籍する生徒たちの心理的不安を取り除くことが、最も重視

すべき課題であると考えている。

引き続き、鶴ヶ島中学校と西中学校の校長らを委員とした教育

課程等検討専門部会や開校準備委員会と連携してより良い開校を目指していく。

Q 子の成長にデジタル化をどう役立てる

おあた 太田 ただよし 忠芳 議員



A こどもと向き合える時間を増やすツールとしたい

問 公立保育所業務支援システムの保育現場での効果は。

答 指導計画や保育日誌などの

日々の作業負担の軽減や時間の大幅な短縮が期待でき、保育士がこどもや保護者と向き合う時間を確保できる。また、保育所

と保護者が正確で迅速な情報共有ができ、保護者の利便性も向

上する。

問 クラウドを利用するのか。

答 クラウド利用のサービスを想定し、万全のセキュリティ対策と個人情報保護を徹底できる事業者を選定する。

問 教育データ活用ロードマップに沿った本市の検討方向は。

答 国は「教育データを活用して、児童生徒個々人のふり分けを行ったり、信条や価値観等のうち本人が外部に表出することを望まない内面の部分を可視化することがないようにする」と明記している。



市内保育所でも、デジタル化をどう役立てる？

Q 人の集まる都市公園の にぎわいのある活用

うちの
内野 嘉広 議員



A 都市公園をより有効に活用 できるように取り組んでいく

問 本市における都市公園の活用についての基本的スタンスは。

答 なるべく多くの方に自由に公園を利用してほしいと考えている。しかし、不特定多数が利用するために一定の基準を設けており、鶴ヶ島市都市公園条例により、行為の制限、許可の特別、行為の禁止、利用の禁止または制限をしている。ほかにも、気持ちよく利用できるように利

用マナーの呼びかけを行っている。

問 都市公園における市民主体のイベント開催時の都市公園条例上の取扱いについて。

答 物品の販売や募金などを行う場合、集会などで一部または全部を独占して使用する場合は、都市公園条例で市長の許可を得なければならぬと規定している。



都市公園の賑わいのある活用を！

市が後援、共催、事務局をしているイベントは、公共性の高さから使用を許可している。**問** にぎわいのある都市公園の活用について。

答 公園を活用したにぎわいの創出は、地域の活性化につながるものと考えている。今後も、より有効な公園の活用や利用者の利便性を高めていけるよう、意見や要望を聞きながら取り組んでいく。

Q 鶴ヶ島市が目指す 未来のすがた

はせがわ きよし
長谷川 清 議員



A 掲げている市の将来像を目指す



市役所庁舎

問 前回の質問で根拠に基づく政策立案の考えに立って、市長が最重要施策として掲げる施策について質問したが、私と執行部の考え方に大きな食い違いを感じた。また、施策として実施すべき根拠が感じられず、第6次鶴ヶ島市総合計画で目指している市の将来像、「しあわせ共感安心のまち つるがしま」に向いているのか疑問であるため、再度質問する。

答 (仮称)「つるの駅」構想の成果目標は、食をテーマとした企業誘致により、つるの駅とその周辺エリアへの来訪者の獲得及び市民の雇用を創出することである。

問 ガーデンパークによるまちづくりの成果目標は。

答 地域住民の社会参加の促進や誰もが集える場所づくりである。また、新たな地域の交流機会の創出として、ガーデンパークを活用した交流イベントの開催による、市外の人も呼び込んだ鶴ヶ島駅周辺地域の活性化の推進である。

問 鶴ヶ島駅周辺地区まちづくり整備計画の成果目標は。

答 居心地のよい歩行者中心の充実した暮らしの確保と地域住民をはじめとした人々の憩い・交流・にぎわいの創出である。

Q 空き家対策について

おおそねひであき
大曾根英明 議員



A 空き家の活用という考え方を基本とする



問 現状把握と本市の傾向は。

答 空き家の数及び空き家率の動向は、埼玉県と近似しているものと考えており、微減していると推測している。

問 利活用を含めた問題解決は。

答 鶴ヶ島市空家等対策計画で、「空家等の発生を予防・抑制」、「空家等の活用・流通を促進」、「空家等の適正管理を促進」の3点を基本方針とし、取組を行っている。居住中からの意識啓発や注意喚起に加え、埼玉県宅地建物取引業協会埼玉西部支部との協定により、空き家バンク制度を設けている。また、周辺に悪影響を及ぼす空き家などの所有者に対して是正通知の発出や直接訪問などにより適正管理の促進をしている。

問 災害対策について。

答 空家等対策の推進に関する特別措置法では、特定空家等や管理不全空家等は、行政が関与しやすくなる制度が設けられているため、適切に運用する。

問 将来に向けた取組について。

答 今年度予定している空家等対策基本計画の改定にあたり、「空き家の活用」という観点に着目し、作業を進めていきたい。また、空き家等意向調査の結果を分析し、本市の実情に即した取組を展開する。

Q 認知症高齢者が安心して暮らせるまちに

こばやし
小林ひとみ 議員

A 今年度からチームオレンジの取組を開始する



問 市内の認知症高齢者数と高齢者人口に対する割合は。

答 介護認定を受けた方のうち、日常生活に支障をきたす症状や行動が見られる認知症高齢者数は、令和4年10月末現在、1808人で、65歳以上の高齢者に占める割合は、8・8%である。

問 認知症患者に対する支援は。

答 市及び各地域包括支援センターに、認知症地域支援推進員を配置し、関係機関と連携した事業の企画や相談会を実施している。また、情報交換の場として、8か所で「オレンジカフェにこまる」を開催している。

問 地域ができる支援は。

答 今年度から、認知症の方や



ご家族のニーズと認知症サポーターを中心とした支援者をつなげるチームオレンジの取組を開始する。

問 認知症に対する正しい理解を深めるための児童・生徒への取組は。

答 小中高生を対象に、認知症サポーター養成講座を実施している。児童・生徒からは、認知症を理解でき、対応方法が分かったなどの感想があった。

◎その他の質問

一 鶴ヶ島市の文化財を魅力あるものに

二 特別支援学級について

Q 防災体制の充実に

ついて

いずもびんたろう
出雲敏太郎 議員



A 女性視点が增えるよう発信を 続けていきたい

問 避難所運営において想定される課題は。

答 避難所では、要配慮者や体調不良者などが共同生活を送ることになる。避難所はホテルなどの快適に過ごすための施設ではないため、健康被害やプライバシーの保護など、様々な面で課題がある。そのため、防災倉庫などにパーティションなどの多くの資機材を保管している。

問 防災会議のメンバーに女性を増やす取組を。

答 防災会議の委員改選時に、なるべく女性の推薦を、各関係機関にお願いしたが、女性の割合は増えなかった。今後も女性の委員拡大に向けて努力を続けていきたい。

問 避難行動要支援者の避難訓練は。

答 市総合防災訓練で個別の声を



防災体制の充実を！

Q 街頭防犯カメラ設置の 妥当性は

ふくしま めぐみ
福島 恵美 議員



A 現時点で未定だが、地域における 防犯対策の一つとして検討

かけをしての参加はない。今後、身体状況や参加希望を丁寧に聞き取りながら、参加していただけるようお願いしていきたい。

問 両親が帰宅困難者となった場合の学校の対応は。

答 保護者の迎えがあるまで子どもを学校で預かる。

◎その他の質問

一 教育環境の充実について

二 公園に洋式トイレの設置・改修は

街頭防犯カメラの設置で市民の安心安全につながるのであれば歓迎したいが、市民のプライバシーがリスクに晒される心配もある。コストとリスクに見合う防犯効果があるのか。

問 導入と維持管理のコストは。

答 導入コストは1台当たり数十万円程度、維持管理コストは1年間で1台当たり数千円から数万円程度と認識している。

問 映像流出防止策は。

答 複数の情報セキュリティ対策を施すことが必要である。

問 刑法犯認知件数の推移は。

答 平成15年を100%とした場合、令和元年が30・3%、令和5年が23・1%である。



問 専門の学者は、「現時点で防犯カメラの効果は不明瞭」、「具体的な実証的データによる検証方法も未確立」と指摘している。検討にあたって最も重視した、防犯カメラが防犯に資するという科学的エビデンス（根拠）は。

答 現在、個々具体的ということではないが、先進事例を見て、効果を感じている。プライバシーへの配慮、安全性や安心性、費用対効果のバランスを整えながら前に進みたいと考えている。

◎その他の質問 S O G Iで差別されない鶴ヶ島へ



学校と地域の連携を！

Q 学校と地域の連携について

たきしま まさのり
瀧嶋 正紀 議員



A 地域とともにある学校を目指していきたい

問 PTAの役割とは。
答 学校の教育活動への協力、児童・生徒の校外における生活の指導、地域における教育環境の改善、会員相互の学習など、学校と家庭の連携を円滑にすることである。

問 学校応援団の成果について。
答 児童・生徒が地域の大人に関わる機会が増え、地域に支えられながら学校生活を送ることができていることを実感し、他者に感謝する気持ちの醸成が図られていると考える。

問 学校応援団コーディネーターの役割とは。
答 配置先の学校長と協力し、地域や学校の実情に応じた学校応援団の活動の企画立案や、学校応援団の活動に参画する地域

の様々な団体、組織などとの連絡、調整をすることである。各学校の学校応援団コーディネーターを最大3人まで委嘱でき、負担が1人に集中しないよう配慮している。

問 第4期鶴ヶ島市教育振興基本計画策定に向けての地域との連携については。
答 こどもによって地域が生まれ、地域によってこどもが育まれていくという地域とともにある学校を今後もしっかりと目指して推進していきたい。



エレベーター・自動ドアの設置を！

Q 市民センターの利便性向上へ

このの
今野 雄一 議員




A 自動ドア化とエレベーター設置は、必要と考えている

問 東市民センター入口は、重い扉のため、幼児や高齢者、車いすの方が開閉に苦労している。東市民センター以外の市民センター入口は、自動ドア化されている。扉の改修など対応が必要では。
答 高齢者や障害者など、全ての方が不自由なく利用できる施設機能が大変に重要であると考えている。

問 自動ドアについては、すぐには回答できないが、国の有効な財源を検討しながら進めたい。
答 エレベーター未設置の北市民センター及び東市民センターは、車いすの方の2階フロア利用が厳しく、また、高齢者の階

段での転倒リスクも指摘されている。防災拠点施設としても、誰もが不自由なく利用できるよう、エレベーター設置の検討が必要では。

答 現時点では、エレベーター設置の予定はしていないが、利用者の高齢化や災害時の避難所機能に鑑み、設置は必要と考えている。

今後、専門的な調査を実施し、構造上の設置の可否や、費用などの財源措置を含め検討していく。

◎その他の質問 困難を抱える方への投票支援について

Q 市内公共交通の今後 について

小島 幸広 議員
こじま ゆきひろ



A 公共施設の再編などに合わせて 見直しを行っていききたい

問 現状のつるバス、つるワゴンの利用状況は。

答 令和5年度の一日の利用者数の平均は、つるバスが632人、つるワゴンが448人、合計で1080人である。運行を開始した平成23年度と比較し、つるバスが約2・5倍、つるワゴンが約2倍と増加している。

答 利用者からの要望を、可能な限り踏まえ、道路の整備状況などに対応したルート・ダイヤの見直しを適宜行っている。引き続き、公共施設の再編などとタイミングを合わせて見直しを行い、市内公共交通の充実を図っていく。

問 東松山市のデマンドタクシーや嵐山町高齢者外出支援タクシー助成制度を参考にした制度



市内公共交通の充実を！

の検討は。

答 市域がコンパクトであるため、つるバス、つるワゴンのような路線定期運行を充実させることが市内公共交通の利便性向上に効果的である。

今後他自治体の先行事例などを研究しながら、実情にあった移動手段の確保・充実に向けて研究していく。

◎その他の質問 会計年度任用職員の雇用状況について

Q 複合施設(旧西中学校)の検討状況は

たかしの まさひろ
高篠 雅洋 議員



A 市民の声が反映された施設となるよう検討を進める



複合施設の基本構想策定に向けて！

問 複合施設(旧西中学校)基本構想策定に向けた市民意見調査の状況は。

答 アンケートやヒアリング、市民意見交換会により調査を実施している。

問 アンケートの回答は、西中学校周辺地域の居住者からが多く、年代は30・40代を中心に、幅広く意見があった。

答 子育て世代からの意見は、親子同士で遊ぶ、飲食ができる場所を望む声があった。

問 障害者生活介護施設の移転に対する利用者からの意見は。

答 移転後の施設においても、現行と同様に緑が見える環境やプライバシー及び安全性への配

慮を望む声があった。

問 老人福祉センターの風呂機能について、賛否両論あるが、どのように整理していくのか。

答 フレイル予防、介護予防のための社会参加や費用面を考慮し、さらに検討を進める。

問 市民意見調査結果から反映すべき点は。

答 市民意見調査の結果から市民意見を第一に考え、市民の声が反映された施設となるよう、今後も意見を伺いながら検討を進める。

◎その他の質問 一本松駅南口改札開設に向けた取組状況は

委員会審査

条例

議案第39号
鶴ヶ島市税条例の一部を改正する条例について

地方税法等の一部改正に伴い、個人の市民税における令和7年度分の特別税額控除(定額減税)の実施、固定資産税における滞在快適性等向上施設等の用に供する固定資産に対する課税標準の特例に関する規定の追加等をするものです。

Q 滞在快適性等向上施設とは何か。

A 市が道路や公園などを造る場合に、民間の事業者がそれに呼応して施設をオープン化などした施設である。

議案第40号
鶴ヶ島市都市計画税条例の一部を改正する条例について

地方税法等の一部改正に伴い、滞在快適性等向上施設等の用に供する土地及び家屋に課する都市計画税の課税標準の特例措置の追加を行うものです。



令和6年度的一般会計補正予算1件及び特別会計補正予算2件を審査しました。

一般会計(第2号)

市民協働推進事業

Q 鶴ヶ島第六自治会から「輝クラブ活動」が提案された背景は。

A 約180ある世帯の半分が独居や夫婦二人暮らしの高齢者であり、子ども会もない状況の中であったため、危機感を持った高齢者の方々から、世代を超えて楽しめるイベントなどを開催する「輝クラブ」を立ち上げたいと提案があった。



輝クラブ

市内公共交通運行事業

Q EVバスの選定方法と他社との比較は。

A 新たな運行事業者と協議の上、安全に運行するために事業者が既に使用している車種を選定した。他社と比較し、走行距離や充電時間なども遜色ないと判断した。

学校安全推進事業

Q より実践的な防災教育・訓練を実施するにあたり、藤小学校及び藤中学校がモデル校となった理由は。

A 児童・生徒数が多い藤小学校及び藤中学校の取組の成果を他校に広げていくことが効果的であると考えたためである。



EVバス

国民健康保険特別会計

Q 今回の補正の詳細は。

A 令和6年12月2日以降に現行の保険証が発行できなくなることに伴い、新たに資格確認書を発行するためのシステム改修費などである。

介護保険特別会計

Q システム改修の背景は。

A 介護保険制度の改正に伴い、令和6年3月末で介護療養型医療施設が廃止となり、4月1日以降の認定申請に対応させる必要があるためである。

次回定例会のお知らせ

次回の令和6年第3回定例会は、8月27日(火)に開会予定です。

議会の日程は、開会日の5~2日前に決定し、市のホームページのほか、市役所1階などの議会情報公開コーナーでご案内します。

ホームページはこちらから

鶴ヶ島市議会

検索



ガーデンパーク視察

令和6年6月9日(日)にグランドオープンとなったガーデンパーク。市議会として、完成を前にしたガーデンパークへ視察に行きました。現地を回り、整備の状況や構想など詳細な説明を受けました。



↑公開を控えた蒸気機関車



脚折第三自治会
子ども会



市議会

チャレンジする人を応援する鶴ヶ島に



脚折第三自治会子ども会の子ども達

子育て中の親と子どもの学年を超えたつながりを増やすため、かつて解散してしまった子ども会を自治会と協力し、再び立ち上げた「脚折第三自治会子ども会」。

令和6年4月28日(日)に脚折第三自治会子ども会の役員にインタビューを行いました。

●日頃の活動から感じること

現在の会員数は未就学児から中学生まで含め50人程です。ハイキングや運動会、クリスマス会など年間7回程度の活動を行っています。また、地域に在住の専門家や他団体と共催し、蛍の幼虫放流とタケノコ掘りなども毎年行っています。

今の時代は変化が目まぐるしく、忙しい子どもたちが多く感じます。体を動かすことや自然の中で過ごすことは時代が変わっても子どもには大切なことだと考えて、それらをできるだけ取り入れた活動を行うようにしています。子どもたちにとって子ども会活動がリフレッシュできる居場所のひとつになればいいなと思っています。

●議員に望むこと

子ども会や自治会活動への参加者が減ってきています。多世代の交流の場、近隣・地域住民の関係性づくりの場をつくる手助けをしていただきたいです。相談・要望を直接聞いてくれる住民の窓口的な議員の方がいらっしやると助かります。

●市議会を身近な存在に

議員の方々も議会以外で様々な活動をされていることと思

ますが、市民への宣伝・アピールをもっと行ったほうが良いと思います。市議会をより身近に感じられる機会を増やしてほしいです。

●子ども楽しく遊べるまちへ

最近の公園遊具は、健康遊具が多く設置されています。アスレチック施設の整備も含め、子どもたちが楽しく遊べる環境も必要だと思います。



〈インタビューに参加した脚折第三自治会子ども会の役員の方々〉
坪山玲緒奈さん、町野真由美さん、右岡千恵さん

●地域で子どもに関わること

子ども会のメリットは大人も子どもも近所に顔見知りが増えることです。地域ぐるみで関わってもらった経験が子どもたちにとって財産になり、自分のま

市議会は市民の声を直接聞きに出かけます！

編集
後記

議会だより8月号を皆様にご協力いただき、無事に発行する事ができました。ありがとうございます。

今号の特集記事「市民と議員の懇談会」を6月に行いました。それぞれ3会場において様々な意見が寄せられました。

市民・団体インタビューでは、地域のこどもの健やかな成長のために活動する「脚折第三自治会子ども会」の皆さんから大切な声をいただきました。

今後も、市民と議会を結ぶ「議会だより」の使命を果たしていけるよう、企画・編集に取り組んでいきたいと思

(広報広聴委員)

委員長 小林ひとみ

副委員長 今野雄一

委員 太田忠芳

委員 小川信茂

委員 村上信吉

委員 福島恵美

委員 高篠雅洋

委員 内野嘉広

委員 坪山玲緒奈さん、町野真由美さん、右岡千恵さん